

# 年 頭 所 感

一般社団法人日本アルミニウム合金協会  
会 長 山 本 隆 章

令和2年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。



会員の皆様方並びに関係各位の皆様におかれましては、本協会の運営に際しご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年の我が国の経済は、企業収益が底堅く推移し、雇用・所得環境の改善が続くなかで、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

世界に目を向けますと、アメリカは個人消費の回復が継続しておりますが、米中貿易摩擦等を背景に世界経済は減速しており、ロンドン金属取引所のアルミ相場も一昨年からの傾向を引き継いで下落し、国内のアルミ価格も下落傾向にあります。

アルミニウム二次合金の需要を支えてきた我が国の自動車メーカーの自動車生産については、国内生産は、自動車工業会の統計の1月から9月までの合計で前年比102.9%と増加しましたが、海外生産は同じく1月から9月までの合計で前年比95.0%と減少し、海外生産用部品の生産が減少していることから、二次合金の国内需要の8割を占める鋳物・ダイカスト製品の1月から10月までの生産量は、経済産業省の統計で前年比96.7%となりました。

国内の二次合金の生産は、原料となるアルミニウムスクラップの海外への流出もありますが、概ね国内で発生するスクラップの量に応じて生産しております。生産量は協会の統計で、10か月連続前年同月比マイナスとなっており、1月から10月までの生産量も前年比97.5%となっています。

国内需要に対して、国内生産で不足する量については、輸入二次合金により賄われております。経営面では、この輸入二次合金価格の影響を受けて国内価格が下落し、生産量も減少する厳しい経営環境となりましたが、会員各社の努力により製品と材料の値差は確保することができたものと見ております。

今後の見通しとしては、世界経済は、米中貿易摩擦の長期化等を背景に景気減速の傾向が継続するものと見込まれ、アルミニウムの需給についても先行きの不透明感が強い状態が継続するものと見込まれております。

これまで、国内需要の一部を担ってきた中国からの輸入二次合金は、同国の環境規制の進展で、1月から10月までの輸入量も前年比97.8%と一昨年に引き続き減少傾向にあり、今後の国内需給への影響が懸念されるところです。

加えて、労働力の確保のための安全安心で魅力ある職場づくりや安定的な操業を維持する上でも労働災害の防止に努める必要があり、アルミスクラップ資源の海外への流出、リサイクル機能を担っていく中での産業廃棄物処理等の環境問題にも課題があると考えます。

また、アルミニウム二次合金の需要を支えてきた自動車産業は、100年に一度の変革期を迎えているといわれ、今後、自動車を構成する部品が大きく変わることが見込まれております。アルミニウムについては、その特性を生かし、これからも自動車の軽量化に大きく貢献できるので、当業界としても車体部品や足回り部品等への用途拡大のため、新たな材料開発などの取り組みが重要となっております。

地球環境保全が人類に必須かつ喫緊の課題となっている中で、重要基礎素材であるアルミニウム二次合金の安定供給とアルミニウムリサイクルの一翼を担う当業界の果たすべき役割と責任の重要性は揺るぎないものと確信しているところです。

協会と致しましては、今後とも経済や環境対策などに関する施策や関連する情報の早期の収集、伝達に努めると共に、個別企業では対応が困難な諸問題に引き続き取り組んで参る所存です。

最後になりましたが、関係各位の一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして私の年頭の挨拶とさせていただきます。